

自民敗北、民主が第1党

自民	公明	民主	共産	社民	諸派	無所属
49	11	50	4	2	0	5

首相続投も厳しい運営

第二十回参院選が十一日投開票され、自民党は選挙区、比例代表で四十九議席にとどまり、勝敗ラインの改選五十一(欠員含む)を確保できず、与党でも改選過半数割れした。民主党は比例第一党となり、改選三十八議席から躍進、自民を上回る五十を獲得した。公明党は改選の十から十一に増やす一方、共産党は改選十五が四に減り、社民党も二で「二大政党」の流れが加速した。



議席を大幅に伸ばし、テレビ中継で笑顔を見せる民主党の岡田代表。十二日未明、東京・永田町の党本部

自公両党は非改選と合わせ、参院の安定多数(百二十九)を占めたとして、小泉純一郎首相の続投方針を確認したが、二大争点となった年金、イラク多国籍軍への自衛隊参加問題が痛撃した形で、首相の政権運営は厳しさを増しそうだ。

投票率は共同通信の推計(十二日午前三時半現在)で、五六・五七%と二〇〇一年の前回並みだった。

選挙戦全体の勝敗の鍵を握った二十七の一人区で、自民は和歌山、鳥取、島根など保守地盤の厚い選挙区で勝利。激戦の香川、愛媛、佐賀でも民主に競り勝

ったが、秋田、滋賀、奈良、高知、長崎、大分の各選挙区で議席を守れず、十四勝十三敗に終わった。独占していた二人区の群馬でも一議席を落とした。

民主は、青森、岩手、山梨、三重、岡山などで勝ち、十五ある二人区すべてで、推薦を含め自民と議席を分け合った。さらに三、四人区で二議席を獲得した。秋田、高知、沖縄は民主、社民両党などが推薦した無所属が当選した。

公明は埼玉、東京、大阪の三選挙区で議席を確保。共産は一九五九年以来、選挙区での獲得議席がゼロ、社民党も選挙区で獲得できず、無所属の鈴木宗男、辻元清美両元衆院議員は落選した。